令和２年３月２５日発行　第１３号

魚沼市 まちづくり委員会だより

日頃、まちづくり委員会にご協力、ご理解いただき誠にありがとうございます。
まちづくり委員会だよりも今回で第13号となりました。発足当時は、委員会を知ってもらう意味もあり、年2回発行することもありました。近年は年1回の発行ですが、歴史を感じ、先人の方々に感謝するばかりです。
今年度開催した市民会議でも川村先生を講師にお招きし、まちづくりの心得を学び、再認識したところです。「先人を敬い、郷土を愛する意識が高まれば、行動が変わりまちの空気も変わってくる。」というような内容でした。今後も、この魚沼の為に知恵を出し合い、汗を出し合い、次世代の子どもたちに負担を掛けないよう、よりよい魚沼市の実現に向けて進んでまいりますので宜しくお願い申し上げます。

魚沼市まちづくり委員会　会長　桑　原　郁　夫

令和元年度市民会議　開催

令和元年12月７日(土)

魚沼市まちづくり委員会では、魚沼市のこれからについて考えるため、令和元年度市民会議を開催しました。ご参加いただいた多くの皆様誠にありがとうございました。
第１部では、10月に視察研修に行った、公民連携まちづくりの先進地である岩手県紫波町の「オガールプロジェクト」について、参加者から報告をさせていただきました。
第２部では、まちづくりの先進事例について、講師より基調講演をいただきました。

第１部　紫波町「オガールプロジェクト」視察研修報告

報告者：桑原　郁夫　（まちづくり委員会会長）

報告概要

紫波町は「環境と福祉のまち」を目指した循環型まちづくりを進めている。
食料とエネルギーの自給率を上げていけばそのまちは生き続けることができるという事を前提に、公共施設・商業施設・住宅に多くの地元産材を使うよう心がけ、そのために建設から伐採、植林など長期の計画を立て、地域資源の活用を進めている。多くの木材を使うことにより多くの廃材や木挽きが出る。それを燃料として公共施設の暖房や給湯に利用し、市外電力会社への支払いを抑える。また地元産の材料で高性能な住宅施策を打ち出し、大手ハウスメーカーの施工を制限し地元の職人を守り育てる。これらはほんの一部であり、紫波町も開発途上とのことだったが、魚沼市でも取り組むことができる部分も多く、有意義な視察をすることができた。

第２部　基調講演「人口減少時代におけるお金をかせげるまちづくり」

講師：川村　健一 氏
（広島経済大学名誉教授／まちづくり委員会アドバイザー）

講演概要

1．住む人が、住む理由を説明できるまちが元気になり、なんとなく住んでいる人が多いまちは衰退する。
2．毎日、当たり前でなく、有難いと思いながら暮らすことが大事。
3．多くの地方はリトル東京を目指してしまう。魚沼は不便なところも多いが、地域がそれぞれの個性を強みとし地方創生をしていき、“地消地産”で地域経済を刺激・拡大していくことが大事。

市民対話の日開催

令和元年11月８日(金)

佐藤市長にご参加いただき、魚沼市まちづくり委員を含めて19名で話し合いをさせていただきました。官民協働の在り方について様々な意見交換を行うことができました。また、佐藤市長のお言葉からは、まちづくり委員会へのご理解とご支援を感じることができ有意義な会となりました。これからも意見交換を密に、官民協働でまちづくりを進めていきたいと思います。

健康福祉部会

元気づくり実行委員会　始動！

健康福祉部会では、市内で健康づくりを行っている他団体との協働を目指し、元気づくり実行委員会を立ち上げました。同委員会は、魚沼市・魚沼市教育委員会・魚沼市体育協会・魚沼市社会福祉協議会・ＮＰＯ法人エンジョイスポーツクラブ魚沼・ＮＰＯ法人スノーパーク小出・魚沼市まちづくり委員会で構成されています。令和元年度の活動としては、10月26日(土)に魚沼市地域振興センターコンベンションホールにおいて、元気づくり講演会を開催し、多くの方から参加をいただきました。

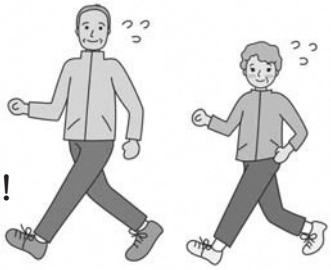
講演会では、上村医院院長の上村伯人氏が、魚沼市の医療の現状と、市民に向けた健康づくりのヒント、ポイントを分かり易くパワーポイントを使って説明されました。肥満にならないための日常生活の注意事項「ごはんよりおかずを減らそう、パンよりお米を食べよう」など、目からウロコの心身の健康活動に必要なアドバイスがたくさんありました。

続いて、パネルディスカッションが行われ、ＮＰＯ法人エンジョイスポーツクラブ魚沼の星俊寛氏、魚沼市社会福祉協議会の横山京子氏、魚沼市まちづくり委員会の佐藤喜郎氏のパネリストの方々が運動を通じた健康づくりの実践を紹介しました。

当日は「運動で元気になる標語」の表彰も行われました。受賞者の皆様おめでとうございます。

優秀作品（６点）

- ○ **運動で　元気に笑顔が　あふれだす**
- ○ **運動で　家族の健康　いつまでも**
- ○ **健康は　日々運動の　積み重ね**
- ○ **始めよう！　一歩が生み出す　運動習慣！**
- ○ **楽しく運動　続けて貯筋　笑顔いっぱい　明るい毎日！**
- ○ **運動で　つくろう笑顔と　魚沼元気！**



入賞（10点）

- ○ 運動は　不老長寿の　薬だね
- ○ 毎日の運動で　動く楽しさ　動ける嬉しさ
- ○ 運動で　いきいき　長生き　魚沼市
- ○ 犬連れて　犬に連れられ　ウォーキング
- ○ 健康作り　みんなで走ろう　未来のために
- ○ 寝たきり防止とボケ防止　食べて歩いて笑いましょう！
- ○ 朝ごはん　食べて運動かし　医者いらず
- ○ まず一歩　健康長寿の　仲間入り
- ○ 楽しもうよスポーツ　うれしいな健康
- ○ お若いね　体操仲間の　ほめ言葉

市民一人ひとりが意識したい運動習慣。これからは、標語を活用して精神的充実をはかり、さまざまなジャンルで人生100年時代、イキイキと元気な生涯を目指していきたいものです。

魚沼市は、米(まい)ねっと制度や元気ポイント制度の普及を目指しており、会場受付でもパンフレットの配布が行われました。まだの方は是非登録して、健康づくりに取り組みましょう。

元気づくり講演会の様子

元気づくり講演会の様子

今後も健康福祉部会は、市民目線で自分の健康を意識して健康づくりに取り組み、市民一人ひとりが健康で楽しく喜びを持って暮らしていけるような活動をしていきたいと思っています。あわせて部会員の募集及び元気づくり実行委員会として一緒に活動してくれる団体を募集しています。魚沼市民の健康寿命の延伸のため、一緒に活動してみませんか。

地域産業振興部会

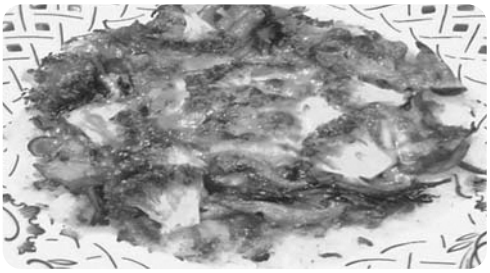
“うおぬま コシPizza”
３パターンで市民食に挑戦

１．小腹対策・子供や家族の夜食で冷蔵庫あさりの“我が家の即席 Pizza”

ちょっとした小腹を満たすのに、我が家の冷蔵庫を覗いて、使い残しの食材を活用。ご飯を粒が半分程度の大きさになるよう潰し、厚さ６～７㎜に伸ばしてフライパンへ。フライパン１つで”我が家の即席Pizza”冷や飯焼飯感覚の簡単レシピ。

２．ご近所の奥様方・気の合ったお友達と一緒に腕を振るう、これぞ “奥様ご自慢 Pizza”

日本食の王様“うおぬまコシヒカリ”甘さと美味さモチもち感を存分に生かしたこの上ない生地に、魚沼の旬の山野菜とのコラボは奥様方の調理の腕に無限の広がりを見る。仲間との自慢話に花が咲く！



３．優れたうおぬま食材のコラボをプロの匠が焼き上げる一品 “本格派コシの Pizza”

うおぬまコシヒカリの良さを120％引き出し、これぞ本格派“うおぬまコシ Pizza”プロの匠が焼き上げる新時代の Pizza。これからは Pizzaと言ったら“うおぬまコシ Pizza”と言ってもらえるように！

10月５日(土)の里山まつりで出店、200人以上の方から試食頂き、190人の方からアンケートを頂いた。**93％が大変美味しかった＋美味しかった**、70％が買ってでも食べたい、6％がこれなら自分で作って食べたい、と想像を超える結果でした。

魚沼市は、世界一のうおぬまコシヒカリの生産地。また、自然に恵まれた環境から生を受ける旬の山野菜の食材の宝庫。その美味しい食材のコラボと、それを使って美味しいPizzaに果敢に挑戦する魚沼市民の情熱。新しいタイプの Pizzaが生まれない訳がない。

市民が認めた“うおぬまコシ Pizza”は、市民食として広がりが出た時、“地産外商”の大きな武器となり、地域活性化と雇用の創出につながる。

生活自然環境部会

生活自然環境部会は、昨年まで「花じまんコンテスト」を実施してきましたが、昨年度の第５回記念大会を最後に終了させていただきました。

今年度は、国道17号と352号にある井口新田交差点の花壇整備を行いながら、今後の活動内容について検討を進めてきました。「花じまんコンテスト」を主催した経験から、市内各地域で、多くの方々が、花を育てているということを知りました。そんな花いっぱいの魚沼市を、より多くの皆さんに知ってもらうために、**「魚沼 花＊花マップ」**の作成を検討しています。

「育てている花をみなさんに見てほしい」「花作りの楽しさを共有したい」「花作りの仲間を増やしたい」方は、ぜひ事務局まで情報をお寄せください。

生活自然環境という分野は、移動交通手段や環境問題・自然保護等市民の皆さんの生活に直接関係する重要なテーマです。生活自然環境部会では、そういったことに興味がある方やアイデアをお持ちの方を大募集しています。ぜひ一緒に活動していきましょう。

花壇整備の様子

教育文化部会

ひとりじゃないよ。みんなで食べよう。

教育文化部会では、人口減少対策の一環として、子育ち子育て支援の視点から、各地で開設されている「子ども食堂」について話し合いを続けてきた。

７月には長岡市宮内にある「銀河食堂」を視察した。ここは宮内小学校の前にある多機能子どもセンター「銀河」の中にあり、毎月第２土曜日の10:00～13:30に開かれ、小・中学生は100円、高校生以上は300円、事前申込制で定員内であれば誰でも参加できる。

視察当日は、同センターの藤田課長から開設のねらいや現状等の説明を受け、視察メンバーからはたくさんの質問が出された。内容ある意見交換をすることができた。

社協「みんなであそぼ」の様子

開館時間前から子どもたちが集まり、それぞれ好きな遊びをボランティアの高校生と一緒にやっていた。子どもと地域を結びつけるという狙いもあり、昼食時には６名のご高齢の方の姿も見え、話を聞いてみたところ「月に１回だが、家で食べるより子どもたちと一緒に食べるとおいしいので楽しみにしている。」と言っていた。

４月の定例会等で、魚沼市社会福祉協議会職員との意見・情報交換も行った。同社協で８月19日(月)に「みんなであそぼ」を開催したので参加したところ、多くの子どもたちが楽しく遊び、昼食のカレーをおいしそうに食べていた。魚沼市内での「子ども食堂」（仮称）の定期開催に向けた展望が開かれていることを実感した。

市民からの更なる理解を広く得るために映画「こどもしょくどう」の上映会の開催に取り組んだが、実施には至らず、今後の課題として残った。

政策部会

政策部会では、この地域に関係するヨソモノの方や若者の意見を集約し、まちづくり・市政に反映させることを目的に活動しています。

本年度は４月24日(水)に、元川崎市職員で2009年から2012年まで魚沼市中央公民館長も務められた星野修美氏を講師にお招きし、「このまちにおもうこと」をテーマに勉強会を開催しました。当日はまちづくり委員だけでなく、魚沼市・十日町市・南魚沼市の青年会議所メンバーからも参加いただきました。

その後は内部事情もあり活動できておりませんが、また機会がありましたら勉強会を開催いたしますので、是非ご参加ください。

自分のこと、地域のこと、魚沼市のこと、一緒に考える仲間を募集しています。

まちづくり委員会

- ■生活自然環境部会⇒小出ボランティアセンター
- ■健 康 福 祉 部 会⇒小出公民館
- ■地域産業振興部会⇒小出郷福祉センター
- ■教 育 文 化 部 会⇒小出公民館
- ■政　策　部　会⇒小出ボランティアセンター他

まちづくり委員会ホームページで開催日程及び活動報告もご覧いただけます。

★興味がある方は下記にご連絡ください！
魚沼市 総務政策部 地域創生課
TEL 025-792-9752

編集後記

今年も'異常'気象とよく耳にした。続いた台風も、この冬の少雪についてもそうだ。異常も度重なっていけば'正常'になってしまう。反対語でありながら転換していく。少し意味合いは違うが、常識と非常識もすぐ反転してしまう。場所や時代などで常識が非常識になってしまう。たとえば日本ではご飯を食べる時お茶碗を持って食べるのが行儀が良いとされているが、韓国では無作法になるなど、国が違うだけで真逆のものになる。時が経るにつれ変遷していくものもある。

地域づくりの現場においても度々起こっていることではないか。同じ言葉が発せられても、聞く人の背景によって様々な意味に受け取られる可能性がある。「そんなつもりじゃなかったのに‥」でも相手は感じた、思ってしまった。話し手の責任だけでなく、聞くほうにも寛容さは必要だ。両者の協力があっての会話となるのだと思う。

令和2年3月25日　第13号　■発行：魚沼市まちづくり委員会　■編集：魚沼市まちづくり委員会だより編集委員
■連絡先：魚沼市地域創生課（魚沼市役所）Tel 025-792-9752　E-mail:chiiki@city.uonuma.niigata.jp
■まちづくり委員会ホームページ：https://www.machidukuri-uonuma.com